



號 參 第
日 六 十 二 月 四 年 二 十 和 昭
行 助 之 幸 川 大 報 編 兼 行 發 印
助 之 幸 川 大 報 編 兼 行 發 印
一 ノ 七 西 銀 區 橋 本 京 東
社 信 通 盟 同 所 行 發

人事異動

△辭 令
大阪支社勤務社員 川勝 傳
大阪支社經濟部内經主任ヲ命ス
同 鹽見 恒明
大阪支社經濟部外經主任ヲ命ス
同 吉田 良好
和歌山支局主任ヲ命ス

同 小寺 巖
上海支社勤務ヲ命ス
同 田中 喜一
岡山支局勤務ヲ命ス
同 小野 利幸
同 廣島支局勤務ヲ命ス
同 廣島支局勤務准社員試用 石橋貞右藏
同 廣島支局勤務ヲ命ス
同 廣島支局勤務准社員試用 高尾ユキ子
同 廣島支局勤務ヲ命ス
同 廣島支局勤務准社員試用 依願退社(各通)



◎我社の

移動式豆電送機 愈々活動開始

我社の携帯用電送機(豆電送機)は、遂に日本電氣株式会社にその製作を委嘱中であつたが、内一臺は完成したので三月三十日及三十一日、伊勢神宮御参拜の御寫眞を宇治山田より始めて、送したる處、頗る好成績を収めた。右電送機はNE式小形電送機に最新式考案を加へた近代電氣科學のトップを切るもので、愈々ニューズ報道の第一線に縱横の活躍を爲す事となつた。

今村 君子

准社員試用
福岡支局勤務ヲ命ス
高松支局勤務准社員 小山 文造
職員規程第二十七條ニヨリ退社トス
同 城山 鐵雄
同 三木 雅之介
同 西田 政春
同 岩崎 千代乃
同 本多 靜枝
同 廣岡 慎一
同 依願退社(各通)

◎結婚

布浦 芳郎(本社經濟部)
内本 誠司(大阪支社編輯部)
佐々木 武雄(同 右)
八木 久(本社編輯部)
藤田 金造(横濱支局)
大島 廣(大阪支社經濟部)
中野 凡夫(大阪支社編輯部)
伊藤 福廣(釜山支局)
木下 秀夫(本社經濟部)
森 元治郎(本社政治部)

互助會消息

橋本清太郎 齊藤 保
編譯局ノ事務ヲ臨時囑託ス(各通)
竹下 豊子
上海支社勤務ヲ命ス
永田 稔
准社員試用
大阪支社勤務ヲ命ス
大阪支社勤務准社員 高橋 勇吉
京都支局勤務ヲ命ス
野崎丹津留
尾道支局勤務ヲ命ス
尾道支局主任兼務ヲ命ス
廣島支局長 周際 清
廣島支局勤務社員試用 佛圓 登
尾道支局勤務ヲ命ス
辰巳 光雄
大阪支社勤務ヲ命ス
佐藤 政一
社員試用
高松支社勤務ヲ命ス
高松支社勤務社員 松本 義男
准社員試用
馬場 君恵
總務局勤務ヲ命ス
縣 すみ子
准社員試用
富田紀美枝
高松支局勤務准社員 片岡 榮
大阪支社勤務社員 今井 稔
同 館 正雄
同 土肥 冬男
大阪支社勤務准社員 永峯 八郎
依願退社(各通)

小原 光志(本社發送部)
進藤隆吉郎(本社編輯部)
伊藤 幹(大阪支社編輯部)
前川 春吉(熊本支局)
弘中 隆一(神戸支局)
△出 産
大瀧 巖次(本社編輯部) 第二子
松代 啓次(本社東部部) 第二子
佐藤 一雄(本社外經部) 第二子
寺尾 順祐(京都支局) 第二子
桃井 幸吉(青森支局) 第二子
中井 延次郎(大阪支社編輯部)
第二子(女) 木島 順一(大阪支社編輯部) 第四子(長男)
半谷 高雄(本社東部部) 第二子
(男) 中村 武雄(本社編輯部)
第一子(男) 井上 理三郎(本社英文部) 第二子(女) 岡本 春一(大阪支社編輯部) 第二子(長男)
(男) 久保 保太郎(廣島支局) 第二子(女) 鎌田 秀雄(鹿児島支局) 次男 小川 恒次(關門支社)
第二子(男) 諸岡 一男(同上)
第一子(男) 小倉 虎治(本社通報部) 第三子(女) 山上 正義(本社發送部) 第二子(長女) 秦 澁夫(本社政治部) 第二子(女)

入戸 毎日新聞社々長 武藤勝美氏
三重縣民新聞社々長
十九日來社 鈴木友一郎氏
神戸日日新聞社社長 岡田定信氏
二十日來社
富山日報社常務 渡村三郎氏
日本工業新聞社社長 前田久吉氏
二十七日
京都日日新聞社社長 山根文雄氏
伊豫新聞社社長 大本貞太郎氏
三月一日來社 後宮車務局長 古野常務渡瀨
三月五日來社 富山日報社社長 山根文雄氏
三月八日來社 伊勢新聞社社長 安岡 久氏
三月六日來社 神戸新聞社社長 進藤隆吉氏
三月八日
小樽新聞社社長 宮澤 如琴氏
原益夫氏は八日新任挨拶に來社
三月十六日來社 合同新聞社社長 宮澤 如琴氏
新聞社友新聞社(代表取締役) 大石光之助
三月十八日來社 京都日日新聞社社長 山根文雄氏
三月廿一日
新潟支局長 落千代 來社即日歸任

◎岡山高知間 専用線開通

豫て岡山省へ申請中であつた岡山-高松-高知間同盟通信専用電話線は三月二十二日開通した。右は四國に於ける最初の専用線で従來通信路上比較的惠まれなかつた同方面のニュース聯絡は右専用線開通に依り面目を一新するこゝとなるであらう。

人事往來

二月十五日來社 函館毎日新聞社々長 岡本正一氏
十六日來社 山陰新聞社取締役支配人 西山虎治氏
四月七日來社 北國新聞社長 林 政武氏
海潮新聞社長 香川能太郎氏
四月十日來社 海南新聞社常任監督役 今井 喜藏氏
四月十一日來社 山形自由新聞社々長 服部敬吉氏
大分新聞社々長 大津 征夫氏

岩永社長ラヂオを通じ

「新聞講座」の初日放送

岩永社長は四月一日より八日間日本新聞通信界の代表的權威者によつて連續放送される「新聞講座」の初日を承り、四月一日午後八時半より約二十分に亘り左の講演を行つた。

△内外新聞界の現状

現在我國にどれ程の新聞があるかと云ふと、新聞紙法によつて刊行される定期刊行物は本年二月末現在で一萬二千九百一十六の多きに達しますが、其の中で一定の保證金を納めて時事を論ずる日刊新聞紙は其の数はくつと減つて千二百四十五紙となり、更に其の中から輪轉印刷機を有するもの、即ち相當の部数を印刷してゐる新聞社のみを勘定して見ますと大體二百五十社となるのであります。尤も右の二百五十社の中には幾十臺の高速度輪轉機を持ち百何十萬と云ふ大部数を發行してゐる者もあれば、數千の發行部数しか持たぬものもありません。それに又我國の新聞界では各社の發行部数は之を公開せぬことになつて居ります關係上、現在我國の日刊新聞の發行總數は之を知るものが頗る困難であります。種々の點から推定して先づ千二百萬以上にするのではないと思はれます。

今之を歐米諸大國のそれに比較して見ますと、先づ米國には約二千の日刊新聞社があり、皆相當の發行部数を持ち其の發行總數は四千萬に上つて居ります。又英本國にも大小約千七百の新聞紙があり、ロンドンだけでも日々の發行高は約八百萬に上ると云ふこととありますから、英本國全土では少くとも千五百萬部以上の新聞が發行されるものと見なければなりません。

従つて此等米英兩國に比較すれば我國の新聞紙はその數から見て又發行部数の點から云つても未だ及ばざること明らかであります。然し佛蘭西、獨逸、伊太利、ソビエト聯邦等に比較しますと敢て遜色を見ないのであります。少くとも佛蘭西以外の之等諸國に比較しますと、寧ろ我國新聞はその數及發行部数に於て優つて居ると信じます。最近外國の最も信頼すべき雜誌に面白く表が出て居ります。それによれば世界各國に所謂第一流紙と目せらるゝものかどの位あるかと云ふと英國に三十一社、佛蘭西に四十七社、獨逸に十九社、伊太利には二十三社、ソビエト聯邦には三十社、北米合衆國には六十六社あると書いてあります。此の表には我が日本の新聞社には出て居りませんが、此の表に出てゐる外國の一流紙なるもの、標準によつて果して我國に之等に匹敵し得る有力紙かどの位あるかと考へて見ますと、先づ二十社乃至二十五社と云ふことになりませぬ。

次に現代の新聞紙の特徵について申述べて見ますと、現代の新聞事業は其經營の規模が頗る大きくなつたと同時に、記事の範圍が非常に擴大され、所謂社會相の生きた鏡となりつゝあると云ふこととあります。

す。即ち明治の初年頃の新聞を見ますと、何れも何等かの政黨其の他の團體の主義綱領に基き天下國家を論ずることを主とし、その他のものは、政治、經濟及び極く限られた範圍の社會記事に止まり、従つて讀者層も一定の知識階級に限られて居つたのであります。現代の新聞は之と異なり、單に知識階級のみを相手とせず、主人も讀めば細君も讀み、子供にも面白く、女中にも目を通すと云ふような所謂讀者層の普遍性を目的とし、苟しくも一般大衆の知らんとする事柄、又は



一般大衆の興味を繋ぐ事件は悉く之を紙面に網羅すると共に、ニュースは單に文字によつて之を報道するに止まらず、寫眞によつてより深き實態を出すこと又娛樂面を充實してなるべく大多數の讀者を獲得せんとすることを目的として作られる様になり、昔日の言論の指導を主たる目的とした機關と云ふよりは寧ろ報道の機關たる性質を多く帯びるに至つたのであります。従つて現代の新聞は凡ゆるニュースを蒐集するがために國內は勿論

全世界に亘つて電報網を張り、高價なる電信電話料を費して社會一般の事相をカバーするために昔日の新聞とは比較にならない程の大勢の人を使ひ、加ふるに段々各新聞社相互間の競争が激甚となつて來た、時には數行のニュース、一枚の寫眞にも千金を投ずるやうな必要に迫られるは勿論、讀者數の急激な増加による印刷費の膨脹販賣網の整備等に巨額の費用を要するに至り、かくして新聞發行の事業經營は年と共に大企業となりつゝあるのであります。

かく申しますと現代の新聞は昔日の言論の指導機關たる地位から今日のニュースの報道及娛樂の提供を主とする報道又は娛樂機關に墮したやうに考へられる方もあるかと懸念されますが、之は決してさうではありません。今日の新聞も社説には非常に重きを置き、第一流の記者が之に當つて居るのであります。唯昔と異なる點は前申しました通り、昔の新聞は必ず或る政黨派若しくは或る團體の主張乃至は利益を代表するものとして其の論陣を張つたのであります。今日の新聞は社會大衆を相手として居ります結果、一黨一派の機關誌たることを好まず、時に輿論を喚起すると共に時には輿論の存する處を察知して之を表現するやうな傾向が著しくなつたと云ふ點であります。

猶此の外に現代の新聞は記事報道するに當りても昔の如く單にニュースを其の儘記述せず、必要に應じて之に適當な解説を加へて何人にも容易に理解し得るやうな形にして之を紙面に掲載すると云ふ傾向であります。一例を挙げれば昔は頗る難解なものとて極く一部のみにしか讀まれたなかつた經濟記事の如きも、近頃は適當な解説が加へられて紙面に載る結果、經濟記事の讀者は非常に多くなつたのであります。而して此の傾向は大衆讀者の知識程度を高る上に非常な貢獻をして居りますと共に、其の一面に於て輿論の趨向を或る程度まで導びき得る餘地が存するのであります。此の點から見ても現代の新聞紙は單にニュースの報道のみを主とするものでなく、寧ろ輿論指導機關としての使命を有して居るのであります。従つて之に携はる者の責任も亦重大になつたと申さなければならぬのであります。

猶現代の新聞の特徵として注意すべき一つの事柄は外國ニュースに割かれる紙面が多くなつて來たと云ふこととあります。之は國際情勢の複雑化と共に、苟しくも一國の文明人として世界の重大事件は悉く知らなければならぬと云ふ必要に迫られての事であつて寧ろ當然の事でありませぬ。單に我國のみの例を取りましても、約十五、六年前までは我國に打電された外國ニュースは一ヶ月多も三、四萬語を出でなかつたと思はれますが、今日では私の奉職して居ります同盟通信社の取扱にかゝるものだけでも一ヶ月十五萬語を突破し、之に各社の特電を加へますと二十五、六萬語にはなるのではないと思はれます。然しながら、之を英、米等に較べますと未だ遙かに及ばないであつて、それだけ我國國民の國際的知識は後れて居ると申さなければならぬので、此の點は我々の將來大いに意を用ひて發展を圖らなければならぬ處と考へて居ります。

以上申述べました點は單に我國の新聞に止まらず、夫々の國情によつて多少の程度の差はあつても大體に於て各國の新聞界を通じての傾向であると云ひ得るのであります。然し乍ら我國の新聞界には外國に多く其の例を見ない特異性がない譯では決してありません。今其の二三の例を擧げて見ますと

第一に我國の有力新聞は多く朝刊及夕刊を發行して居りますが、之は我國特異の現象でありまして、諸外國に於きましては夕刊紙は夕刊紙、朝刊紙は朝刊紙と全く別個の新聞社によつて發行されて居ると云ふ點であります。

次は我國の國情として大新聞社は多く東京及大阪にあつて所謂メトロポリタンペーパーである云ふことでもあります。尤も佛蘭西、イギリス等は此の點に就ては略我國に近いのでありますが、之をアメリカ等に比較して見ますと、前に申しましたアメリカの六十六紙中、ニューヨーク若しくはワシントンで發行されて居るものは僅か十紙に過ぎず、其の他は大部分地方紙である云ふことでもあります。又獨逸、ソビエトロシア等に於きましても因り中央に大なる新聞は存在して居りませんが、なるべく多く全國に有力なる新聞紙が散在せんことを獎勵するの策をとつて居るようでありませぬ。之には色々の原因があり今一々之を説明する暇はありませんけれども、兎に角我國の新聞の一特徴として數へることが出来ると思ひます。

第三に我國の新聞の特徴として擧ぐべきことは地方版の非常に多いことと云ふことでもあります。例へば米國では各國各都市に相當有力な新聞が澤山ありますが、大體に於て其の販賣區域が其の州内に限り他の州には及びません結果、最も大なる發行紙数を有するものと云つても八十萬部位で我國や英國の大新聞に遠く及ばぬのであります。我國では國が小さく且つ凡ての事に中央集權の傾向が著しいので中央の大新聞が近頃は勿論、遠く九州、北海道の果て迄も進出して居ります結果、各地方地方によつて夫々の地方紙を作り、之を中央から配布する本紙と併せて當該地域内に配布すると云ふ有様であります。それがために有力各紙の組版の数は他の諸外國の新聞業者の到底想像にも及ばぬ數に上つて居るのであります。

第四に我國の新聞は各種の社會的事業を行ひ、或は更に進んで大にしては職業野球團の編成であるとか、之を小にしては菊人形の陳列に至るまで種々の催し物をやつて居りますが、之は他の外國新聞には殆んど見られぬ現象であります。

猶申述べたいことも種々ありますが時間の關係上私の講話は此の邊で止めて置きますが要するに現代の新聞紙は其の言論によつて輿論を喚起し、其の報道によつて國民智識の増進を促し且つ國際間の相互諒解を容易ならしむると云ふ重要な役目を有する國家社會にとり必須の機關となつたのであります。従つて之に従事する我々は其の責任の大なるを痛感し日夜其の進歩發達のために力を致して居るものであります。一方に於て新聞製作のことは國家社會あらゆる方面の理解と援助なくしては到底困難なものでありますから、今日を以て開始され運轉八日に及ぶ新聞講座によつてなるべく多くの方々の新聞に對する御理解を進め、以て社會全般と新聞社とが協力して、より品位の高い新聞、より多くの正確適切なニュースを盛る新聞を作り得るの一助となれば幸甚之に過ぎませぬ。

猶最後に新聞事業と不可分の關係にある通信社の仕事に就て些か申述べて見たいと思ひます。一口に申せば通信社は各新聞社が共同に必要とするニュースの材料を集め之を各新聞社に供給するの事業であります。云はば各新聞社の最大公約數の仕事をする機關であります。然るに最近新聞社の必要とするニュースが頗る多岐多端に亘り各新聞

社がこれ等凡てのニュースを自ら蒐めると云ふことになる莫大な費用と非常に大勢の人員を要するのみならず、今日の如く電信電話の利用がニュース蒐集の上に必須の要件となりました時代に於ては如何に通信社が設備を擴充せしめて凡ての新聞社の要求に應ずると云ふことは到底不可能になつて來たのであります。そこで各新聞社ともなるべく所謂特種に屬するもの以外は之を通信社に任せようが經濟的であり、且つ効果的である云ふことになつて來たのであります。殊に外國電報の如きは非常に高價な電報料を拂つて同じ事實を各社が別々に受信すると云ふことは經營の合理化と言ふ點より甚だ無駄なことでありますから、なるべく通信社を利用すると云ふ傾向が著しくなつて參りました。之が爲めに通信社の事業が著しく大規模になつて來たのであります。

其の外に通信社は新聞社の遂行し得ざる特別な重要な任務があります。それは何かと申しますと新聞社は單に外國の記事を蒐め之を其紙上に掲載すればよいのであります。通信社は單に自國の新聞のみならず外國の總體通信社若しくは新聞社に我國のニュースを供給せね



戴冠式特派記者 加藤萬壽男君

殿下の該博なる御經驗に感嘆 同盟に就ても非常な御理解

英國皇帝、皇后兩陛下戴冠式に御參列の秩父御名代宮同妃には三月十八日午後一時四十五分東京皇邸御發、同三時横濱出帆の平安丸にて御臨島立も遊ばせられたが、我社華府支局長加藤萬壽男君は戴冠式特派記者としてロンドンに派遣される事となり、秩父御名代宮兩陛下御召船平安丸にて御隨行の光榮に浴した。

と朝日、日日の代表三名は特別の恩召により午後の陪食を賜つた、テーブルには兩陛下、松平、本間山樺女史と我等三名お言葉により背廣の平服にて臨む、兩陛下は御氣儘に我等を迎へられ新聞通信社の機構、勤務時間、最近の組閣本部に於ける記者の活動に就いて先づ御下問あらせられたが、畏くも殿下には同盟については非常な御理解があらせられ、同盟の世界の各通信社間に於ける地位、勢力等余は現在に於ても一流の列に加つてゐる點、更に國內無電の完備、その他機構の充實により明るい將來の約束されてゐる旨を護みて御

ばならぬ義務を負つて居る關係上、自然我國のニュースを外國に報道し外國をして正しく我國の真相を認識せしめると云ふ職能を持つて居るのであります。此の意味に於て通信社は新聞界にとり必須の機關であると同時に多分に國家的の意義を有する機關となつたものであります。而して此の通信社の使命を達成するためには單に國內に完全な通信網を張るのみならず、全世界に亘つて或は自己の特派員を派遣し或は外國の通信社と締結して完全な通信網を張る必要があるので現代に於ける通信社の事業は益々大企業化するに至つたのであります。現にイギリスにはロイテル、アメリカにはUP、AP、フランスにはハバラス、ロシアにはタス、ドイツにはDNB、イタリーにはステファニス等夫々強力なる通信社があつて、何れも自國の新聞社に正確なる内外ニュースを供給すると共に外國に自國の真相を報道して居るのであります。先般、我國に於ても在來の聯合電通の二天通信社が打つて一丸となり今日の同盟通信社を結成しましたのも全くかかる國際的情勢に鑑み我國にも歐米第一流の通信社に劣らざる通信社を建設せんが爲めに外ならなかつたのであります。

戴冠式の御盛儀寫眞

英國皇帝陛下の戴冠式の御盛儀寫眞は、わが通信社局の好意で今同倫敦東京間を無線電送することとなり、既に彼我の關係當局間で打ち合せを了し、愈々本社を通じてわが國内の新聞に發給配信することとなつた、受信寫眞の枚數は已に決定しないが、大體御盛儀の全期間を通じて約十枚前後の見込であるといふ。これは、英國間が、歐米及び英領殖民地にも夫々發信する關係上、現在の機械的施設よりしてはこれ以上の枚數を日本に發信することは事實上不可能だといふ理由からである。なほ本社では四月十日附、全國新聞に豫約の申込みを交付する旨勧誘の通牒を出した。



同盟皆藤記者、足柄同乗

陽春五月、英國國古の威儀たるジョージ六世陛下及皇后陛下の戴冠式を記念して同月廿日スピットヘッド沖に舉行される大艦觀式に派遣の一等巡洋艦「足柄」は第四戰隊司令官小林中佐少將座乗し四月三日横須賀軍港を出發したが、我社記者皆藤幸藏君は滿家中村研一、演藝家徳川夢聲、映画人

白井茂、同大小島嘉一氏等と共に足柄同乗の光榮に浴し同日午前十時解纜華々しく渡歐の途に就いた。同君は途中新嘉坡、亞丁、スエズ、ポートサイド、マルタ等に寄るの上五月九日正午英國ポーツマス軍港入港同港に十三日開條泊、其間大艦觀式の國際的威儀を報道するの重大任務を帯びて居る。

三月號輯録

鮮・滿・支・支局便り

◇古野理事來滿

新長支局長 小野敬夫

古野理事は豫定の如く三月六日早朝吉林で大連に上陸、八日新京着、例の如く頗る元気に關東方面と會見各種事情を聴取して居りますが、關東軍、滿洲國、弘報協會等何れも大歓迎にて古野理事の意見を求め發せられて居る事多です。目下の所滿洲言論界は古野理事來滿のため非常なる活氣を呈して居ります。

昨十六日は、飛行機にて東部國境東部へ赴き、國境視察と鈴木貞一大佐訪問、本日夕方歸來の際、これより對朝鮮報協會補強策にとりかゝるでせう、暫く日時を要しませうと思ひます。よき機会が明確になり、よりよき効果を擧ぐる事を希望して居ます。

小生は、種々豫め、打合せを爲し又東道を爲すべく、五日に大連に参り、八日同行歸任しました。

哈爾濱支局便り

滿洲國內に於けるニウイス中央集權化の傾向は、一、二年來益々極端になつた爲め、新京支局を除き各支局の活動は著しく制限されるようになり、軍事問題には固より政治、經濟全般のニウイスは統制主義と、それに基く合法的乃至是憲法的禁止の爲め折角の興味ある材料も伏せておかねばならなかつたり或は新京支局の活動にお委せする外ないような結果になり、大朝、大毎の連中も精々滿洲版向きの細かいものを打

電したり書いたりする位で、三年前のように電通も加へ編を削つて競争するような事は案にたくもな、お互があんまり仲が良すぎで困るほどです。こんな状態で瀋陽支局は開店休業だ」と仲間同志で笑ひ合つて居ます。相手が中央集權で来るならこちらも集中主義でいつそ在滿支局員は全部新京支局に移住することにしようか

ますが、同盟と弘報協會との交渉経過如何によつては同盟社員はその新京にさへ不必禁だとなつては冗談と考へて居る。考へてみると電通合體問題で二年近くやつたか落着かない日を過ぎ、やつと同盟が確立したと思ふと今度は同盟記者の滿洲引揚説が又もや重心が浮動して居る格好です、それと云ふのも閑居不善の類ひでせうか、おつとこれでは振り出しに戻りました、出直すほどの話題もありませんでこれでお金を塞ぎます。(U生)

釜山便り

釜山の北約三里此處、南鮮湯の街情賑やかな東萊温泉に程近い東萊邑市場通りでは毎年の行事陰曆十五日を期して素戔大(若も)男(若も)が白衣の勇士、老も若も男も女も三日間東西兩軍に分れて我が軍の爲、我が邑の爲、力の最善を盡して賑やかに物々しく人情味豊かに展開される。

今年も肌寒い小春日和の二月二十五日午後五時に開戦の幕が落さ

れ、二十八日午後五時勝敗決定のラッパが街から村へと響き渡つた。小學校生徒の綱引競技とは全然趣を異にし、審判旗を東西に區分した村と村、町と町を擧げて力の決勝戦であり、一ヶ年を賭しての一切の優越權の決定戦である。眞に彼等に取り入り、待ち遠しい意義深い行事は先づいつてあるまい。

會場市場通りの兩軍入口には必勝を期する東西兩軍勇士歡迎の描幕が夫々擧げられ自軍の部署に就く入口を示して居る、大通りの中央には樽も高く審判所が設けられ兩軍監視と大會行進の參謀本部となる、更に審判所を挟んで兩軍參謀部があり、戰況偵察と策謀に當つて居る網の中心、審判所前には傘大の大きなローブが幾百本となく束ねられて大木の幹の如く更に結ばれて兩軍へ夫々三筋の大きな網が延々と渡りかたせ、恰も三本の太木が長く、置かれて居る様だ更に此の三本から隨所に小綱が無数に附けられて居る。中央高く審判旗が立てられ、征東、征西、軍都督令の長旗が之を中にして風に翻り兩軍唯一の大旗として之に隨所に赤、黃、青地の大、中、小督令旗が配置されて指揮命令の重責に任じて居る。

老幼男女白衣の勇士は長蛇三陣の綱線に鈴なりの盛況である幾百幾千の力士達は長旗の動きに連れて色とりどりの小旗が一上二下彼等獨得の掛旗も勇ましく三條の大蛇陣が奮動する、海に物々しい情景であり、珍妙なる競技の力の世界である。

此の間甲村と云はず乙村、丙村三日間は新勇士の出陣に鐘と銅鑼大鼓と小鼓と朝鮮樂器の奏樂につれ手振り身振りも面白く若者達が景氣と符出しに懸命となり、會場へと繰り込むのである、辨當持參の老幼男女は此の時こそ一切の仕

事を放棄して近郊近衛警察氣分で押しかけ應援しては引張る、引張つては一杯元氣附けると云つた、敗けるに敗けられぬ傳説的競技である。従つて殺倒する人数だけでは幾千幾萬、警戒に當る警察官も臨時に設けられた飲食店から見世物華大變な騒である。従つて喧嘩や負傷者も昔は随分あつたとの事であるが、近年は書きたる程もでないとの事、斯くて三日間力と力の決戦の幕が落されるや優勝旗が勝者に返還される、副賞が贈呈される、榮冠に輝く勇士の面上には此の一年間一切の優越權が附與され凱旋の亂舞は又格別のものである、奇慣と傳統と情緒の白衣の地に於ける此の種力の大會こそ内地社友の士味を呈する珍妙な行事である、一文を草して南鮮の照會の参考に資す。(僑胞生)

京城支局便り

げに躍進の朝鮮といふが、本島の森羅萬象悉くが躍り起つて居る。殊に滿洲國出現以來、日滿を繋ぐ橋梁の役割を買つて素晴らしい發展ぶりだ。

この躍動する半島の心臓、京城に在るわれ等の使命は彌が上にも重大なものである。怒濤の大海を渡つて早朝から深夜まで鳴り響く。そして突如鳴る電鈴――

「それッ! 臨時だぞ」
その一瞬支局内はさつと緊張する。長距離ボックスに飛び込んだ速記者から「號外!」の一聲、忽ち京城府内六社へ、それから各地方へ、七個の電話と電信専用電話一回線には豫ての手配通り全員が配備する。府内六社は終つた。釜山だ、平壤だ、大邱だ、元山はよいか。羅南、清津、鎮南浦、新義州、木浦、光州、大田と全羅十二社並に放送局、全部オーケー。

殆ど鮮内の通信網を總動員して迅速な報道が矢のやうに飛ぶ。

かくして當支局の報道は隣間に全半島津々浦々に、二十萬民衆の眼と耳に機關銃の一齊射撃だ。何しろ内地にいへば本州から滋賀縣一つを除いただけの廣汎な區域を一手に受持つて、半島ニユース界の總本山を以て任じて居るのである。しかも全體的に見ても京城は政治的に頗る重要な地位にある。政變の度毎にはきつと總督と軍司令官とが一役はねば相濟まぬらしい。廣田内閣總辭職以來の政局指針となつて外動、内動ともに萬全の報道網を張つて萬一に備へた。殊に大朝、大毎の十名にあまゝる外動記者に對し當支局は僅か三名の外動を對抗し、實に一騎當千の奮闘を嘗つたものだ。

京城は半島の首都であることに間違ひない。とすれば報道記事について朝鮮内では京城が内地の東京と僅々同等以上の重要性もあるものがあるを否む難い。總督の一聲が京城の出來事、東京のニユースよりも鮮内各新聞社にとつてはより直接的に重大なことが度々なのである。つまり京城のニユース、地ダネが全鮮契約十八社並に放送協會のためにも當支局からは絶対切り離し得ない譯であるが、この地ダネは殆ど全部當支局から府内各紙並に地方紙に速報配給され、大朝、大毎の地方版をも壓倒する毅然たる地位を與へて居る。

それ程當支局の地ダネは鮮内に於て權威あるものとされて居る。重要記事は本社に速報し、その他鮮内加盟社に配信して同盟の威力を遺憾なく發揮して居る。しかも各社とも通信を重視し地ダネをどしどし採用、優遇する傾向あることは誠に欣快である。

南京便り

南京支局長 芦田英祥
最近、當地方面への旅行者は、非常に増え、我社關係のみでも、既に十名位に上つて居ますが、大概の人々が、豫ての豫想と、餘程異つた印象を受けられるやうです。それで此等の點を、参考にし乍ら、思ひつく儘を少し書つらねて見ませう。

△△△
上海、南京間の距離は、丁度東京、横濱間位に思はれて居るやうですが、どうして實際は、鐵道哩數三百一十キロ餘、東京から名古屋近く迄に相當します。特急で五時間、日清汽船で楊子江を溯れば一晝夜を要します。以て支那の廣大さが察せられませう。

△△△
南京は六朝時代からの舊都で、支那式町の典型のやうに思はれてゐますが、現在では、城壁その他二、三のものを除き、全市殆んど新建設に成つてゐます。建物こそ上海に比し非常に劣りますが、都市計画そのものは、相當立派で、全く近代都市に甦生してゐるので

△△△
城内は東西、南北何れも十哩位あり、支那第一の廣大なもので、人口百萬を擁して尙非常な餘裕があります。城内に山あり、田畑ありと謂つた奇觀は、恐らく南京に於てのみ、見得るものでありませう。

△△△
南京の持つ、最大特徴は、恐らく、娯樂機關の缺乏と謂ふ問題でありませう。苟くも一國の首都として且人口百萬を有する大都市として、こんな清潔(?)な町は古往今來、存在した例を知りません裏面は別として、今の南京では藝妓の存在は、絶対に許されません。ダンスホール、カフェエその他女のサービスは、全くないので、美妓三千の全盛を誇つた有名な秦淮も、現在は僅か三百名に制限された歌女が、舞臺で歌ふだけで、客席に聴ぶ事も許されず、昔を憶ぶやうでもない程の凋落振ります。だから宴會があつても二次會は全く駄目、小生などは、いつも九時には歸宅すると謂ふ謹厳さです。日本人仲間「亭主地獄・女房極楽」と謂ふ言葉を使つてゐますが、正にその通りで女難で困つてゐられる方は、一つ息抜きに是非とも南京勤務を志願される事をお薦め致します。阿々

現在では、活動寫眞が、唯一無二の娯樂機關で、之には仲々設備の立派なものがあつます。大使館、陸海軍武官始め堂々たる有爲男子が、週末の活動寫眞替り日を、待

ち焦れてゐる光景は、蓋し南京ならでは見られぬ圖で、他の土地の方々から見れば、滑稽なる悲慘事として屹度憐愍の情を催されるに相違ありません。

△△△
人工的娯樂を禁ぜられた南京市民は、最近では自然を尊ばれて仕舞ひました。抗日戦備でも申しますか、兎も角首都防衛の爲めに、一寸でも見晴しの利く高い所は、一切登らせません、昨年春頃迄は辨當持ちで、ピクニックに行けた山も、今は全く駄目です。日支關係緊張の爲めの最大被害者は南京市民なりと謂つても、過言ではありません。

△△△
支那人との交際は、依然不自由極まるものです。役所での面會は別として、個人の私宅訪問等は、先方の立場を顧慮して、一切やります。又やり得ない状態なので、逆に支那人が日本人を訪問する事も、殆んど不可能の状態に置かれてゐます。現に我支局の門前には、常に二、三名の憲兵が立番して居り、出入の支那人を誰何するので、誰も恐れて近寄りません。盜難除けの効はあるかも知れませんが、之では商賣の方が、あかつたりで、困つたものです。

△△△
この正月から大使館が、南京に移されました。上海にゐるスタッフも追々南京に引越して来る事になります。南京に於ける日本人の数は微々たるものです。現在居留民は赤坊まで入れて百一・三十名世帯数は三・四十戸を出ません。大部分は大使館員總領事館員、陸海軍武官、新聞特派員等動人で、土着の居留民は五・六戸に過ぎません。それでも醬油、味噌等日用品を賣る店もなく、之等は全部上海から取寄せてゐます。以て如何に我

々日本人が、不自由な生活をしてゐるかが、御分りにならうと思ひます。(昭二一、三、八)

青島便り

青島支局長 伴野昭光

青島支局最近の状況報告左の通り
一、通信成績
本社放送ニュースの内容豊富であり、且材料の選擇好適なる爲通信成績良好にして新聞方面並に一般得意先の好評を受けてゐます。今後此氣合調子を推進め、記事内容に潤ひをより多く織込む様當務に於て特に御配慮願ひます。
又經濟通信に於ては上海麥粉相場の入電が支那側より八分乃至十分間遅延し、支局の面目上頭痛の種でありましたが、上海支社に於てルーターのチロカー材料に依らず直接市場より取材する事となりました爲、此ハデキヤップが取除かれ、支那側無電に取けぬ程度に速報出來ますのでこれ亦好評を受けて居ります。

一、出版物の賣捌
入組年鑑は本社に於て相當犧牲を拂つて出すし内容に於ても自信ある著述である巨川島參事より特に懇囑を受けましたので當地得意先大手助全部に戸別に勸説して一部宛參考書として引受けさせ十六部程注文を取りました。
經濟週報は有料四十二部程出して居りますが、内容が改善されて來たので一般の受けが好く事務の合間々々に擴張に廻りエコノミスト、東洋經濟等の諸書も其購讀を止めて我週報に乗替へる機運に向つて來て居ります。パンフレット「世界は何處へ」

これは大阪から送つて來た二十部は三日で直ぐ賣切れ更に追加申込中でありませう。
パンフレットは成るべく大眾向の興味あるものを選択する様、そうすればいくら下げぬ様五十五錢は高くありません。
一、社員健康状態
流行性感冒と猩紅熱が流行しまして特に子供の死亡率が多く一般に脅威を受けましたが支局員一同健康を保持し社業發展に努力して居りますから御安心願ひます。

東京 札幌間に開設の
處女航空に試乗
東京 札幌間の定期航空は去る四月一日より開始されたので、本社ではこの初の空の旅の状況を報導せしむるため、社員部員永中君人君を特派下り第一番機に搭乗せしめた。同君は四月一日午前八時羽田飛行場を出發したが、青森飛行場の地上状態が積雪のため不良だったので、同夜は止むなく仙臺に一泊、翌二日仙臺飛行場發、同夕刻札幌着無事報導の任を果たし五日朝歸京した。

古野理事歸任
古野當務理事は、要務を帯びて去月一日東京發、滿鮮地方に出張中であつたが、十日歸任した。
藤井特信部長
本社特信部長藤井祥正君は今回衆議院議員總選舉に際し、社會大衆黨の公認候補として長崎縣第二區から立候補。十一日選挙戦に臨むべく西下した。

△理事變更並に辭任
杉山幹氏理事就任
同盟結成以來理事として多大の貢獻した東京日日新聞社岡崎鴻吉氏は三月一日辭任しその後任として同社取締役編輯主幹杉山幹氏が就任、又時事新報社松岡正男氏は三月十日附理事辭任した。



同盟結成以來理事として多大の貢獻した東京日日新聞社岡崎鴻吉氏は三月一日辭任しその後任として同社取締役編輯主幹杉山幹氏が就任、又時事新報社松岡正男氏は三月十日附理事辭任した。

◆◆◆
てんぐ會
第一回てんぐ會は、去る三月十五日から同十九日まで銀座西六丁
目の「日本サロン」で開催した、出品数は本社並に各支局から九十點オリエントタル寫眞學校の寺岡講師以下數名の審査員嚴選の結果、一等一名、二等三名、三等三名佳作十點を決定した好成績だった。



大阪支社春季懇親會 三月三日新聞刊日大阪支社社員親懇
會の非常時ハキョウキ一都京山西花めぐりだつたこの日の好快晴
稻本經濟藤川聯兩部長以上勢三十九名加。この日のち十數名
脚婦社員人混へてみ。一名落伍者もなき午後五時解散した。

時 事 年 鑑

同盟に繼承、更新される『時事年鑑』

我社は今回元時事新報社發行の『時事年鑑』を繼承し、新に本社事業の一つに加へることにになりました。御承知の如く『時事年鑑』は我國唯一の完全年鑑として類書中の王座を占めて來たのでありますが、舊時事新報社の解散と共に自然發刊の運命におかれてゐたのを、今回本社がその發行權一切を譲受けたのであつて、之と同時に本社は今日まで『時事年鑑』のために働いて來た編輯員全部と、外に年鑑の販賣及び廣告を受持つてゐた若干の元時事新報社員をそのまま本社に引つぎ、これ等の人はそれら調査部その他各部に配屬されました。

『時事年鑑』が初めて世に出たのは大正七年、今から二十年の昔で、當時一般的年鑑としては僅に『國民年鑑』が顔を出したばかり、年鑑の何者たるかさへも一般大衆の間にはまだ知られてゐなかつた時代なので、『時事年鑑』の企ても當時の出版界からは一種の冒險を以て見られたものでした。然るに計畫圖に當つて『時事年鑑』は意外の成功を收めると共に、計らずもこれが一般大衆への啓蒙の役を果すこととなり、遂に今日の如き年鑑全盛の時代を招來したといふ譯で、この點からも『時事年鑑』は失ふべからざる存在であると考へられます。

兎も尚も『時事年鑑』が創刊早々かくの如き成功を示し、しかも二十年の久しきに亘つてますますその聲價を高め、今日見るが如き絶大の信用を江湖に築くに至つたのは、何といつても時事新報社が『日本一』の名にかけて、その全精魂を打込んだ賜物と申さなくてはなりません。

本社がこの年鑑を繼承したに就ては、一方に於て『時事年鑑』二十年の傳統を堅持し行くべきは勿論であります。同盟にはまた同盟としての精神があり、同盟獨特の見地があることですから、苟くも同盟版としてこれを世に出す以上、立派な同盟の精魂を打込んだ、そして一段光彩のある見事な年鑑を作り上げることに努力しなくてはなりません。

とは申しても『時事年鑑』は別記の如く收むる所廣大無邊、上は皇室より下は一藝人に至るまで、しかも全世界の動きに亘つてあらゆる事相を網羅する仕組なので、編輯の完成を期するは實に容易の業ならず、かつて時事新報社がその全機構を擧げてこれに協力した如く、本社としても同じく全機構をあげて之に協力を與へないことには、所詮事業の圓満なる遂行は覺えないのですから、この點切に各位の御理解を仰ぐ次第であつて、今後『時事年鑑』編輯事務の進行につれて何かと當事者より御依頼の筋が多々あることと思ひますが、その節は何卒十分の御助力を賜はるやう、切に御願ひいたす次第であります。(調査部『時事年鑑』係)

一冊に凡てを盡した 日本一の綜合年鑑

一 萬戸必備の新百科全集

『時事年鑑』は政治、外交、軍事、財政、經濟、労働、文藝、美術、學藝、スポーツ、家事、衛生等の一を盡した綜合年鑑であります。この一冊さへあれば世慮萬端一切OK、あなたの能率は驚くほど高まり、あなたの日常生活はバツと明るくなること請合、新時代の活ける新百科全集として、あらゆる階級の人々に一冊をおすすめ下さい。

【淺草事項】

皇室、爵位勳功、土地人口、帝國議會、行政官廳、國防、外交、財政、金融、商業、貿易、産業、運輸、交通、労働、社寺、教育、裁判、警察、衛生、家庭諸知識、文藝、美術、演藝、娯樂、スポーツ、地方、國領、世界、各國、其他體裁四六倍版八百頁 定價 圓五十錢

◇『時事年鑑』掲載の廣告事務一切は同盟通信社内『時事年鑑』係で取扱ひます。
◇昭和十二年版『時事年鑑』殘本若干あります。御希望の向は同じく右係へ御申込下さい。

「鼠の巢」よ、さらば!!

▽新緑の街路樹を隔て、日比谷公園の横すを見晴らす内幸町の一角、其處はまさしく風致區域であり、凡そゴキ／＼したモダン東京に最も形勢の地位を占めてゐる事實だけは抹殺すべくもないが、ナンしその建物と云つたら念入りのお古さで、その灰色の外形もさることながら、一步内へ足を踏入れたらトタンに慄然、鬼氣の迫るを感ぜしむる態の社屋こそ、實に過去一年有半にわたる我が同盟通信社出版部の本據だつた。そして今、その廢屋に「おさらば!!」を告げる時期が到來したのである。

▽昔の新聞聯合社が、銀座西八丁目の新社屋へてはこれも舊社屋に移つてから久しく廢屋として放置されて、狐狸(う)の跡を委せられてゐた前記の社屋には、「妖怪屋敷」の稱すらあつた、ことは左様に尙尙暗く、ボーの小説の或る場面を聯想する位に、陰翳を極めてゐたのである。如是困流の皮肉を得意とするさる部長が嘗て「鼠の巢」と仰せられたのは、蓋し多分に割引しての批評を申すべきであらう。

▽既に新聞聯合社時代、社屋の狭隘から「ジャパン・トレード・ガイド」と「國際寫眞新聞」の營業部は、某氏の所謂「鼠の巢」の一隅に擴張することを餘儀なくされてゐたが、同盟通信社の生誕と共に「國際寫眞新聞」の編輯部も亦、「鼠の巢」に同居することになり、こゝに出版部は一團となつてむさいながら楽しいわが家の生活を送つてゐたのである。

▽この間「ジャパン・トレード・ガイド」も「國際寫眞新聞」も同人等の涙くましい努力の結果、その發展洵に目覚ましいものがあつたことを強調して頂きたい。先づ「ジャパン・トレード・ガイド」については、山本出版部長の聲明の如く、「海外の配本區域は年々擴大、送本部數も年々増加仕り、當今にては本邦と通商貿易關係ある諸國を網羅し、本書の達せざる所なき有様な有候」である。全く一九三七年度版の發送先は、その國名を貧弱な世界地圖の中から探し出すに困難を感ずるほどの地域にまで及んでゐるのである。

▽「國際寫眞新聞」が今日、大衆の間に根強く喰入り、各階級讀者層の間に着々その地盤を擴大しつつあることは、今更贅言を要しないと思ふ。それがスタートを切つてから思ふに五年間の携まさる努力の結果がハッキリ見えて來たのも一年此方であることと思ふ時、「鼠の巢」も亦、感謝すべきではあるまいか。

▽出版部は今度「鼠の巢」から解放され、銀座西八丁目の舊社屋同盟通信社分館へ三階に移轉した。外觀も新装を呈し、内部の壁も塗り替へられ、五月の陽の中にスッキリと明るい朗らかなニュー・ホームの感である。さうした感じは「鼠の巢」で鍛へられた吾々にとつて特に切實なものがあるのだ。同時に出版部が、同盟通信社の事業の一部として延び行く將來が暗示されるかに感ぜられるのだ。

▽併し想ひを絶つれば早晩取壊しの運命にあるこの「鼠の巢」こそは我國の國際通信事業の搖籃であつたのだ。「鼠の巢」を去るに當つて我々としてもさうぞろ感懷なきを得ない。

▽さらば「鼠の巢」よ、お前の使命は十二分に全うされたのだ、その殘骸に榮光あれ、さらば!! 人生